Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

092

幼児の表現活動について考える（１）
―― ３歳児の描く活動をとおして ――

実松瑞栄（山口大学教育学部付属幼稚園）

１　研究の目的

子どもが、自分の感じたことや思ったことを自由に伸び伸びと表現しながら園生活をしてほしいと願う。

そのために保育者のすることは、まず第一に、子どもの全身での表現に注意深い目を注ぎ、それを暖かく受け止めること、第二に、子どもと一緒に、身の回りの人や物やできごとを五感をしっかり働かして受け止め、豊かな感性を培うよう努めること、そして、第三に、自分の感じたことや思ったことを、より自由に豊に楽しく表現できるように様々な表現の方法（言語・音楽リズム・造形・劇など）を教え楽しませること、の三つがあると思う。

これまでの私は、子どもの全身での表現に鈍感であったり、豊かな感性を培うことに力を注がないでいて豊かな表現を望んだり、大人の側からの形やまとまりをあせって、子ども一人ひとりの表現の姿やその子にとっての意味をとらえることが足りなかったという反省を持つ。もっと様々な角度から子どもの表現に目を注ぎ、子どもが豊に表現するとはどのような姿をいうのであり、そのために保育者はどのように援助すればいいのか考えてみたいと思いこの研究に取り組むことにした。

２　研究の方法

今回は、３才児が描画による表現に取り組んだ実践を振り返り考えてみる。保育室では毎日のように、子ども達がいろいろな用具や素材を使っていろいろなものを描いているが、今回は、保育者が楽しかったできごとを思い出して描いているそばで、子ども達がいっしょに描いた場面を取り上げ、３才児の子どもが描くということはどういうことか考えてみる。

３　実践の概要（男女各10名　計20名　Ｔは保育者）

＜実践１　　10月11日（水）晴れ　運動会３日後＞

片付けが上手にでき10時40分には綺麗になる。弁当には早いので床に座って運動会の話をする。「先生、運動会、面白かったな」と話しかけると、子どもたちは口々に「おばあちゃん、来たよ」「わたし、１ばん」などと話しだす。ひとしきり話した後、みんなで、玉入れの真似をして遊ぶ。一汗かいた後、Ｔが「あー楽しかった。先生、玉入れのこと描こう」と、黄色の色画用紙とクレヨンを取りにいき床に座ると、子ども達もわれがちに、同じ色の画用紙とクレヨンを取って来て描き始める。兄の幼稚園での運動会を見た後、自分達の運動会をとても楽しみにしていたＹ男がＴの横に座り、しきりに説明しながら画面一杯にたくさんの友達を描く。楕円形の顔に１本線の手と足と体のついた人間が、ころんだり、座ったり、背伸びしたりしている。籠の中まで手が届いているひときわ大きな人間が自分とのこと。

ＴはＹ男の話すことを聞いてやっていたので他の子どもの相手をしてやれなかったが、Ｙ男の他に８人の子どもが、かなり長いこと、座ったり寝そべったりして描いていた。後で見ると、その子達の絵は、籠らしきものの周りを笑っている顔が取り巻いていたり、画面一杯に何個もの赤い丸が描いてあり、その中に一人の大きい目をした子どもがいたり、籠と玉と雨とお日様を丸く囲み、その周りに人や兎がいたり（運動会の朝少し雨が降った）等とても楽しい絵になっていた。

次の日、１７人（３人は描いていなかった）の絵をみんな後ろ壁に貼っておいたところ、Ｙ子とＭ子がまだ描きたいという。２人の絵を壁からはずしてやる。それを見てＴ男とＹ子も描くという。４人とＴとで話しながら描き加える。４人とも、籠と玉を2～3個描いていたのだが、さらに自分や友達を描き加える。Ｎ子とＭ子は体操服でなくスカートをはいた女の子を元気よく描く。Ｎ子は１人の女の子の頭に冠をのせる。Ｍ子は画面の上部に〰のような波線を描く。旗とのこと。Ｔ男は２人の人を描くが一方は『おばけのＱ太郎』のように見える。Ｙ子は、画面の中央に大きな籠を描いていたのだが、その周りに４人の頭足人を描く。そのうちのひとりは、歯をむきだし手を伸ばし手の先に四角い物を持つている。園長先生とのこと。

５日後、Ｈ男が「なにか、描く」という。「この間上手に籠描いていたけど、僕が玉入れてるところ描いてみる？」というと「うん」という。壁の絵をはずしてやると玉と自分と先生とを描き加える。次に、お父さんと兄さんと自分が居間でテレビを見ているところを描き、さらに、動物園に行ったよと、きりんの親子を描く。それを見たＩ男が「きりんってそんなじゃな

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

いよ」と黄土色の色画用紙を持ってきて４頭のきりんを描く。そこへＫ男が茶色の色画用紙を持ってきてどんぐりが遊んでいるところを描く。

＜実践２　　11月16日（木）薄曇り
亀山へ遊びに行った翌日＞

子どもたちは、落ち葉を貼ったり、油粘土でなにか作ったり、外へままごとをしに出たり、Ｍ子の持ってきた蛾を囲んで話したり等、それぞれに遊び始めた。

Ｔは、黄緑色の画用紙とクレヨンを持ってきて床に座り、一人で描くことを始めた。蛾を見ていたＫ男とＹ男とＨ男が早速やって来て、「先生、なに描いてるん？」と聞く。Ｔは「石段。昨日、いっぱい、いっぱい登ったでしょう。それから何したっけ」と話しかけ弁当を食べたこと、大きい木があったこと、かくれんぼをしたこと等、いっしょに話す。Ｋ男とＹ男は、ひとしきりＴと話した後、好きな色の画用紙と自分のクレヨンを持ってきて描き始める。Ｋ男は、黙々と、青色のクレヨンでウニやロボットのような面白い形を描く。Ｔが「素敵な形ね。ここにちょっと色つけてみてもいい？」と片隅に色を付けると、続けていろいろな色を付けていく。Ｙ男は、「先生、象ってどんなかいね」と言うので、大きくて、鼻が長くて、耳も大きくて、牙があること等話すと「うん、うん」とうなずきながら画面いっぱいに足が16本もある大きいな象を描き、自分を乗せる。３人で描いていると、どこからかＦ男とＭ子が来て描き始める。Ｆ男はいきなり、画面中央に下から上まで斜めに石段を描き、その周りに小さな頭足人を何人か描き、さらに、石だとか草だとか葉っぱだとか説明しながら線や丸や四角を描いていく。Ｍ子は、「昨日、おちごさんに行ったの」と着物を着ている妹と自分を描き、「こんどは、パパとママ」と言っていたが、Ｆ男が描いているのを見て、妹と自分の周りにぐるりと石段を描く。次に大きな木を描きその木にバナナとりんごとぶどうを描く。そこへ外で遊んでいたＹ子が入って来る。Ｙ子は、ピンクの画用紙の縁にそってピンクのクレヨンで、まず石段を描く。そして、その石段を登っている女の子を５～６人描く。

それまでみんなが描くのを見ていたＨ男が、白色の画用紙を持ってきて兎と猫を描く。Ｔがそこに黄緑色の画用紙で草を作り貼り付けてやる。すると、自分の絵を描き終えたＦ男が、「草？」と嬉しそうに笑い、自分も、草や木や石を切ってＨ男の絵に貼る。

＜実践３　　１月19日（金）雨　身体測定の後で＞

雨で寒いのにどの子も元気いっぱいに登園する。９時15分、全員登園したので管理塔に身体測定にいく。

今月の身体測定はとても上手。厚手の洋服なのに、どの子も頑張って着脱しょうとするし、脱いだものを簡単にたたんで籠に入れることができる。早くできた子が手伝ってあげているし、測定後、養護の先生にありがとうも言えている。

最後に終った子３人と保育室に帰ってみると、まだどの子も遊びを探しているところのようで、あちこちでぶらぶらしている。Ｔは、上手に計ってもらうことができて感心したことを伝え、「そうだ、裸んぼうのみんなを描いてみよう」と画用紙とクレヨンを持って床に座る。そして、「えーと、丸くて時計のような計るもんがありました。Ｓ先生が、16・3 と書いています」等と話しながら描き始める。5 ～6 人の子どもが座って覗き込む。Ｈ男が「僕、描いて」というので、裸のＨ男が体重計に乗っているところを描くと、みんなどっと笑う。「今度は、Ｉ君」と、再びＨ男が要求する。座って待っているＩ男を描く。それから、「時計もあったよね。そうだ、籠もあったな」などと描き加えていく。「僕も」「わたしも」と、ほとんどの子が画用紙やクレヨンを取りにいき、描き始める。身体測定を描く子は、２人のみ。そのほかの子は、ロボットやアンパンマンや虫や地図や迷路やかわいい人形や元気のいい自分などを描く。「先生」と、Ｍ子が自分が鉄棒しているところを描いて持ってくる。Ｔは、Ｍ子が、さらに、友達や飼育小屋やブランコを描くのを見てやる。むこうの机では３人の女児が、西洋紙に鉛筆でいろいろなものを描いていた。

４　まとめ

この３つの実践は、保育者が楽しかったできごとを子どものそばで描いてみた実践である。保育者のまわりで何人かの子どもが影響を受け一緒に描いたが、保育者の描く内容に関係なく自分の描きたいものを描く子どもが何人もいて楽しかったし、自分の描きたいものが浮かんできて、それを保育者に左右されることなく描けることは素晴らしいことだと思った。また、楽しかった山での遊びを、大好きなピンク色でピンク色の紙に描いた絵も、きりんやどんぐりを実物によく似た色の画用紙に描いた絵も、色の関係で、描いてあるのがよく見えなかったけれど、子どもの心のうちを伺えるようで大切にしたかった。

描くきっかけがあったことで、描くことの楽しさを味わえたことが、なにより大切なことだと思う。

NII-Electronic Library Service